



TITLE:

クライシス・マネジメントと都市 アメニティの融合: 実践プロジェク トとその後の活動

AUTHOR(S):

谷口, 幸治

CITATION:

谷口, 幸治. クライシス・マネジメントと都市アメニティの融合: 実践プロジェクトとその後の活動. 安寧の都市 --医学・工学からのアプローチ (Liveable Cities) 2015: 174-177

ISSUE DATE:

2015-01-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/193503>

RIGHT:

クライシス・マネジメントと 都市アメニティの融合 実践プロジェクトとその後の活動

谷口幸治 京都府山城北土木事務所／安寧の都市ユニット 第二期生

私は、「安寧の都市ユニット」第二期生として、平成23年4月から1年間受講した。奇しくも東日本大震災が発生した直後だったので、講義内容やセミナーなどは東日本大震災が題材となった。そもそも、この「安寧の都市ユニット」は工学系と医学系が融合した限定ユニットとして発足している。前年度に同じく京都大学大学院の限定ユニットである「低炭素都市圏政策ユニット」の社会人履修コースを受講した私は、これからのまちづくりのキーワードは「交通」と「健康」だと考えていたので、とても興味深く受講した。

今回、私がこのユニットで取り組んだ実践プロジェクトの概要、その後の研究及び「安寧の都市クリエイター」としての今後の展開について記述する。

実践プロジェクトの取り組み

このユニットのカリキュラムのなかでも、「実践プロジェクト」という大学でいえば卒業論文に相当する科目がメインで、重要な事柄であった。

当時はいくつかの課題ごとに実践プロジェクトのゼミは分かれていたが、私はアメニティ・チームという、どちらかというと工学系の色の強いゼミに加わった。社会人履修生の私たちが取り組むことになった実践プロジェクト——私のような公務員にとっては、読んで字のごとくまさに実践プロジェクトとなったが、ほぼ毎週土曜日にゼミがあり、年度前半は第一期生の先輩方の取り組みを興味深く聞かせていただくとともに、自分の課題発掘にも取り組んだ。第一期生が修了してからも、第一期生の一部の方々は、私たち第二期生に指導・助言を行う立場として、ゼミに参加された。

そういった中でも、いまだ鮮明に記憶に残るのが、伝説の「ちゃぶ台返し」である。実は私は受講当初から本職に関係する水循環を実践プロジェクト



のテーマに考えていた。ところが、とりまとめまであと2か月という11月の中間発表会前のゼミで、第一期生のとある先輩から、「谷口さん、そんなテーマはありきたりでつまらない。せつくなのだから、もっとおもしろいテーマを選ぶべきだ」と、構成もほとんど積み上げていたところでダメ出しを食らった。その意見は至極当然であったため、大きくテーマの修正を行うことにした。

私はこの土曜日のゼミのたびに毎回利用していた鴨川沿いのコーヒー店(資料1)を題材に、京都市の中心部を流れる風光明媚な鴨川の治水問題に取り組むことにした。

この実践プロジェクトは、鴨川における治水対策と景観問題という、一見すると、トレードオフの関係にあるクライシス・マネジメントとアメニティの融合について、鴨川における過去の取り組み事例を引用しながら、『『安寧の都市』における『都市アメニティ』と『クライシス・マネジメント』の調和——大都市の河川である鴨川を事例に』というテーマで研究を進めた。

このテーマについては、前述の「ちゃぶ台返し」の先輩の評価も高く、「おもしろい題材だね」と言っていた。いた。

京都府「政策ベンチャー事業」の取り組み

ユニットを修了した次年度、私はこの実践プロジェクトをさらに研究するために、京都府の自主研究制度である「庁内ベンチャー事業」に取り組ん

だ。この制度は、本府の行政テーマについて、さまざまな視点から政策提案するもので、私は過去に4度ほど都市交通問題を中心に取り組んできた。

今回は「参画型防災(減災)対策についての一考察——防災・減災から超災へ」というテーマで、ユニットの山田圭二郎先生と小山真紀先生にもご指導いただきながら研究した。

この研究では、先の実践プロジェクトで提案した防災対策について、府域全体を対象に「互学互習の防災学習・防災行脚」と「地域BCP(事業継続計画)の策定」の二本柱の政策を提案した。

まず、「互学互習の防災学習・防災行脚」の具体的施策の提案にあたっては、群馬大学の片田敏孝教授が実践された防災教育の成果「釜石の奇跡」を参考とした。片田教授が提唱する「生き抜くための三原則」を実践するために、参画型防災(減災)対策の目標と、その目標を実現させる具体的な案として、「京都府地域防災力アッププロジェクトチーム」(資料2)の創設を提案した。

「地域BCP」については、鴨川流域の地域BCPの策定をめざして、京都府地域防災アッププロジェクトチームを核に、鴨川府民会議と連携することを提案した。

この自主研究の最終提案を知事の前で行い、「たいへん重要なテーマであるので、担当部署は今回の提案を参考にしてほしい」との意見をいただいた。

安寧の都市クリエイターとしての今後の展開

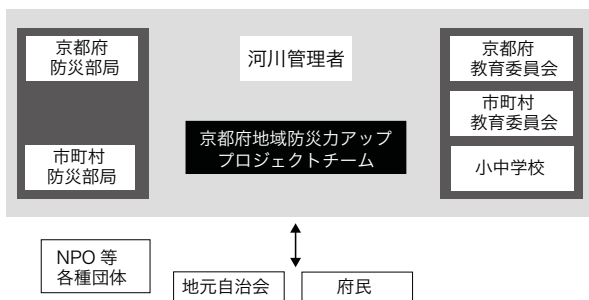
さて、先輩の第一期生は、前年度途中からの開講だったので、半年間は第一期生と第二期生との合同での講義・ゼミで、これは大いに刺激になった。

特に、実践プロジェクトの取り組みに限らず、講義外のまち歩きなど、たいへん興味深いことを教えていただいた。

また、先の「ちゃぶ台返し」の時にも、その先輩は私に新たなテーマのヒントになる人物を紹介してくださった。この先輩の人脈はたいへん幅広く、その後もいろいろな方を紹介していただき、私のつながりもかなり広がることになった。

もちろん、そのほかの第一期生や同期の方とのおつきあいはいまも続いており、「WHAT?」という名称の会をたちあげ、京都市下京区にあるCOCON KARASUMA(古今烏丸)の一角をお借りして活動している。この

資料2 京都府地域防災力アッププロジェクトチームのイメージ



具体的施策

- ① 互学互習の防災学習・防災行脚
- ② 地域 BCP（事業継続計画）

活動は、ふだんは個人個人がそれぞれのテーマに取り組むことを基本としているが、月1回開催される異業種の方々が集まる勉強会に出席し、毎回新しい分野の方々と名刺交換をしている。

ユニットで知り合えた方々は、今後の私の人生に大きな影響を与えるだろうと考えている。

受講時は下水道関係の職場にいたが、現在は民間事業の開発許可を行う部署で仕事をしている。「安寧の都市クリエイター」として、今後のまちづくりはいかにあるべきかを考えているところである。